

今村 竜喜議員



Q 復興を目指すインフラ計画は

A 復興むらづくりでも策定
利便性の向上を目指し整備を進める

今村議員

熊本地震による国道57号の分断、阿蘇大橋の落橋、かろうじて阿蘇長陽大橋は落橋を免れたが立野側、河陽側

の損傷が激しかった。村道栃木く立野線は今年8月末を目標に、阿蘇長陽大橋・戸下大橋を利用する長陽大橋ルートへの応急復旧がされる見込みである。国・県の代執行を含め復旧工事は急ピッチで進められているが、全面復旧には長期間要するものと思われる。そこで、今回の災害のことも考え今後の活用も可能な路線として、南郷谷の最西部に県道28号（熊本高森線）と国道325号を結ぶルートを提案する。昭和29年10月に竣工した妙見橋は道幅も狭く、老朽化が進み、ましては熊本地震の影響を受け、現在もなお大型車両の通行が規制されている。

JR九州も肥後大津・立野間の先行復旧に乗り出している。南阿蘇鉄道は、中松・立野間の復旧には相当な期間が必要であると思われ、震災が起きて改めてその必要性や、果たす役割の重要性を再認識させられた。南阿蘇村復興むらづくり計画においても喜多・見瀬ルート（延長3000m、幅員8m）が平成34年度事業開始、平成36年度終了で上げられている。広域避難所である南阿蘇中学校の利用も近くに、消防や救急の面でも生活上に資するもので、観光や経済、文化、防災対策にも有効な路線である。通勤・通学での代替として重要な役割を担う事業ではないかと考え、熊本地震からの創造的復興の象徴として早期に実現できるように執行部・議会・村民一体となつて是非進めて頂きたい。

村長

本村では国道325号と県道28号熊本高森

線が東西に幹線道路として走っている。この路線を結ぶ道路の必要性はこれまで意見もいただいております。今回の震災でその重要性が証明された。こうした幹線道路を結ぶ道路は、生活道路として、また利用者の利便性向上により観光や産業振興にもつながり、災害時にも避難道として機能する。1月に復興むらづくり計画で国道や県道の幹線道路を結ぶ避難道路が示されている。喜多地区と八里木地区を結ぶ道路についても、喜多区集落座談会の際に、複数の方から非常に不便であるという要望が出ています。今後、長陽大橋ルートが開通すれば、久木野地区からこの道路を使って長陽大橋へ向かう人たちも増えると思えるので、この道路についても整備を進

めなければならぬ。どの路線でどのルートを通るかは、今後、検討したい。今回提案する道路新設は協議を進めながら住民の緊急避難道路として、救助や救援物資輸送ルートとなり得る道路を確保することが重要と考える。交流人口の拡大による地場産業の発展など、経済効果も大きい。果の面においても大きく寄与するものと確信する。県道28号俵山トンネルが建設さ



大型車両の通行規制が続く妙見橋

れた当時から、この付近では道路新設の話があつたが最終的には進展せず実現に至っていない。今回の災害で、その必要性が実証されたこととなった。事業費が高額になると予想されるが、今後、財政措置も検討しながら実現に向けて取り組んで頂きたい。